



Wakayama University
Center for Japanology Studies
日本学教育研究センター



wakayama
univ.

第22回学長杯

留学生による JAPANESE SPEECH CONTEST
日本語スピーチコンテスト

2024年度 実施報告

INDEX

02	入賞レポート
03	学長挨拶
04	講評
06	原稿

1. 「日本のドラマに教えられたこと」

Ibragimova Shokhsanam Zokirjon kizi (ショヒサナム イブラギモフ)

和歌山大学 — ウズベキスタン

2. 「留学生としての一步を踏み出すために」

Roeun Veasna (ラウン ビェスナー)

高野山大学 — カンボジア

3. 「私の留学生活」

呉 凡 (ゴ ボン)

和歌山大学 — 中国

4. 「挑戦なくして得るものはない」

Eugene Heng Ting Shen (ユジン ヘン ティン シェン)

和歌山工業高等専門学校 — マレーシア

5. 「私と日本語」

孫 芸菲 (ソン ゲイヒ)

和歌山大学 — 中国

6. 「日本留学が教えてくれた夢の形」

寇 景祺 (コウ ケイキ)

高野山大学 — 中国

7. 「私の人生で大切なこと」

Yinh Minar (イン ミニア)

和歌山工業高等専門学校 — カンボジア

8. 「実践と理論の対立：中日教育の相違」

黄 金武 (コウ キンブ)

和歌山大学 — 中国

9. 「日本でランニングしよう！」

Dang Thanh Long (ダン タイン ロン)

和歌山大学 — ベトナム

10. 「高野山での二年間」

李 明翰 (リー ミンハン)

高野山大学 — 中国

11. 「ベトナム人に対する印象を変えたい」

Nguyen Thi Hai Ha (グエン テイ ハイ ハー)

和歌山大学 — ベトナム

12. 「謙譲語と接客：私が日本で出会った文化」

Gan Yunuo (カン ウーノン)

近畿大学 — 中国

13. 「気づかない生活」

Carlene Felicia (カルレン フェリシア)

和歌山大学 — インドネシア

14. 「なぜ日本人は『国産』が大好きですか？」

張 悦妍 (チョウ エツケン)

和歌山大学 — 中国

主 催：和歌山大学 国際イニシアティブ基幹 日本学教育研究センター

後 援：和歌山県／和歌山市／（公財）和歌山県国際交流協会／NPO法人 WINコンコード／国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川／高野山大学／
和歌山工業高等専門学校／和歌山 YMCA 国際福祉専門学校

入賞

優勝



「日本のドラマに教えられたこと」

Ibragimova Shokhsanam Zokirjon kizi

(ショヒサナム イブラギモワ)

和歌山大学 — ウズベキスタン

2位



「謙譲語と接客：私が日本で出会った文化」

Gan Yunuo (カン ウーノン)

近畿大学 — 中国

3位

「ベトナム人に対する印象を変えたい」

Nguyen Thi Hai Ha (グエン テイ ハイ ハー)

和歌山大学 — ベトナム



特別賞

「挑戦なくして得るものはない」

Eugene Heng Ting Shen (ユジン ヘン ティン シェン)

和歌山工業高等専門学校 — マレーシア



「気づかない生活」

Carlene Felicia (カルレン フェリシア)

和歌山大学 — インドネシア

特別賞

WIXAS 賞

「なぜ日本人は『国産』が大好きですか？」

張 悦妍 (チョウ エツケン)

和歌山大学 — 中国



学長賞

「高野山での二年間」

李 明翰 (リー ミンハン) 高野山大学 — 中国

「実践と理論の対立：中日教育の相違」

黄 金武 (コウ キンブ) 和歌山大学 — 中国

学長あいさつ

和歌山大学学長 本山 貢



2024年度に開催された第22回学長杯「留学生による日本語スピーチコンテスト」に際し、多くの関係者の皆様に心より感謝を申し上げます。本年度も、和歌山県内の複数の高等教育機関で学ばれている多くの留学生が一堂に会し、日本語の表現力だけでなく、自らの想いや経験を言葉に乗せて伝える貴重な機会となりました。このスピーチコンテストが、皆さんにとって日本語学習の成果を発揮する場であると同時に、多文化理解を深める有意義な交流の機会となったことを心から嬉しく思っています。

今回のコンテストには、ウズベキスタン、中国、ベトナム、マレーシア、カンボジア、インドネシア、ロシアの7か国から、総勢15名の留学生が参加されました。皆さんが異なる背景を持ちながらも、日本での経験や母国との違いを考察し、それを日本語で表現することは、異文化交流の促進に大きく貢献するものです。本日のスピーチが、聞く人々に新たな視点を提供し、共感や感動を生む貴重な契機となったと思います。

和歌山大学は、国際交流の推進を重要視し、多

様な文化や価値観を尊重しながら、留学生と日本人学生が共に学び、成長できる環境づくりを進めています。学問の探求のみならず、異文化理解や相互協力の精神を育むことが、これからのグローバル社会を生き抜くうえで不可欠です。このコンテストが、言語の壁を越えて多様な視点を共有し、新たな友情を築く契機となったことでしょう。

また、ご参加いただいた学生さんには、スピーチを通じて自身の考えや経験を表現するだけでなく、他の発表者の話に耳を傾け、多文化共生の意義を実感していただいたと思います。異なる文化を持つ仲間と交流し、互いの違いを学び合うことが、皆さんの今後の成長にとって大きな財産となっていくことを心から期待しています。

最後に、本コンテストの開催にご尽力いただいた関係者の皆様、審査員の先生方に心より御礼を申し上げます。そして、参加された留学生の皆さんが、この経験を今後の学びや生活に活かし、更なる飛躍を遂げられることを心より願っています。

講評

審査委員長 長友 文子

2025年1月11日、第22回学長杯「留学生による日本語スピーチコンテスト」が開催されました。

今回のコンテストには、和歌山大学の他に、和歌山工業高等専門学校、高野山大学、近畿大学から参加があり、ウズベキスタン、マレーシア、中国、カンボジア、インドネシア、ベトナム、ロシア7カ国の留学生、計15名が出場してくれました。

参加者の皆さんのスピーチの内容は、日本に来てからさまざまなことに挑戦したこと、日本語の背景にある文化と自国の文化を比較しその相違点について調べ、日本文化の理解が深まったこと、留学して人間として成長したこと、日本語を学ぶことで自分の世界観が広がったことなど、どれも大変興味深いものでした。

また、内容だけでなく、日本語の発音やイントネーション、アイコンタクトや身振りなども、本スピーチコンテストに向けて、一生懸命練習したことがよくわかるスピーチでした。どのスピーチも差をつけがなかったというのが、審査員に共通した感想で、順位をつけるのに、大変苦労しました。

今回、入賞され、和歌山大学本山学長から表彰状を授与されたのは、次の方々です。

学長杯に輝いたのは、和歌山大学大学院生でウズベキスタンのショヒサナム イブラギモワさん、第二位は、近畿大学で中国出身のカン ウーノンさん、第三位は和歌山大学日本語日本文研修留学生でベトナム出身のグエン ティ ハイ ハーさんです。また、特別賞には、和歌山工業高等専門学校でマレーシア出身のユジン ヘン ティン シェンさんと和歌山大学日本語日本文研修留学生でインドネシア出身のカレン フェリシアさん、WIXAS 賞には、和歌山大学交換留学生で中国出身の張 悦研さんが選ばれました。



入賞された皆さん、おめでとうございます。

優勝されたショヒサナム イブラギモワさんのスピーチ「日本のドラマが教えてくれたこと」は、ショヒサナムさんが「おしん」のドラマから勇気や女性としての強さを得たことを、自分の経験談を交えながら、上手に表現していました。スピーチ冒頭で山形弁でのおしんと両親の会話が織り交ぜられ、聞く人々を引き込む効果を生み出していました。また、豊かな表現力と堂々とした姿勢で話す彼女のスピーチは、聞く人に安心感を与え、その内容は心に深く響くものでした。

二位のカン ウーノンさんのスピーチ「謙譲語と接客：私が日本で出会った文化」では、冒頭で謙譲語の難しさについて話されましたが、謙譲語が日々の生活の中にも多く存在することに気づきました。特に「ひざまづくサービス」に注目した点が非常に興味深かったです。さらに、自国の「ひざまづく」行動と比較し、その違いを発見することで新たな気づきを得たというスピーチの構成が素晴らしかったです。聞き手を引き込むスピーチでした。

三位のグエン ティ ハイ ハーさんのスピーチ「ベトナム人に対する印象を変えたい」は、日本でよく持たれがちなベトナム人に対する悪い印象に反対し、

ベトナム人の素晴らしさを伝えたいという強い思いが感じられる熱いスピーチでした。特に、「Yagi」という台風のエピソードを取り上げることで、その思いがより一層強く伝わってきました。

特別賞のユジン ヘン ティン シェンさんのスピーチ「挑戦なくして得るものはない」では、挑戦の重要性を自らの経験を交えて分かりやすく説明されていました。特に、ロボットコンテストに出場したエピソードは、聴衆の心を惹きつける素晴らしいものでした。

同じく特別賞を受賞したカルレン フェリシアさんのスピーチ「気づかない生活」では、身近な小さな幸せに気づくことの大切さが上手に表現されていました。また、スピーチのテンポもよく、表現力も豊かで、非常に素晴らしいものでした。

また、WIXAS 賞を受賞した張 悦研さんのスピーチ「なぜ日本人は『国産』が大好きですか?」は、日本人である私たちをうなずかせる内容であり、さらに考えさせられるものでした。ユーモアにあふれ、内容と表現力の豊かさと聴衆を引き込んでいました。今回出場された皆さんのスピーチは、非常にレベルが高く、わずかな差で順位が決まってしまいました。入賞された方々も、賞を逃された方々も、素晴らしいスピーチの内容や上手な日本語、表現力で私たちに魅了しました。スピーチが終わった後の「やった!」という喜びや「悔しい」という思いは、コンテストに出場したからこそ体験できる感情です。その気持ちを大切にしてほしいと思います。

コンテストでは賞を取ることも大切ですが、それ以上に、コンテストに出ようというそのチャレンジ精神の方がもっと大切だと思います。何かにチャレンジすることは、自分との戦いだと思います。結果よりも、参加したことが今後の自信へと繋がっていくと私は信じています。今回参加された皆さん、このコンテストに応募し、スピーチされた勇気とチャレンジ精神を忘れず、これからもさまざまなことにチャレンジしていきましょう。

最後になりましたが、ご来場の皆様、ご来賓の皆様

さま、留学生のスピーチに耳を傾け熱心に聞いて下さり、ありがとうございました。22 回目を迎えたスピーチコンテストは、皆さまのご協力がなければ実現できませんでした。今回のコンテストでのさまざまなスピーチを通して、皆さまに、和歌山で頑張って学び、生活している留学生たちの思いを受け止めていただけたと思います。また、審査員の皆さま、協賛・後援をしてくださった各団体の方々にも、心よりお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。

1 日本のドラマに教えられたこと

和歌山大学— ウズベキスタン

Ibragimova Shokhsanam (シヨヒサナム イブラギモフ)

ある日、私は家族だんらんでドラマを見ていました
母：おれは反対だ。

父：みんなで飢え死にしろというのか！

母：なんとか工面して…

父：どう工面しろっていうんだ！

おしん、うちさはな。もうおめえに食わせる米がねえんだ。わかるか？

おしん：やだ！おれは父ちゃんや母ちゃんのそばさ、いたい。おれ、学校さ行ってえ。

父：おなごが読み書きならって何になるんだ！

私はそのドラマが日本で作られたことを知って、ショックでした。このドラマは二つの大きな社会問題を扱っています。

ひとつはおさない子供が両親によって、よその家に売られ働かされることです。おしんは明治 34 年山形の貧しい農家の家に生まれました。両親は寝る暇もなく働いていました。日露戦争が終わった2年後、おしんは奉公に出ることになりました。そのころの農家は地主から土地を借りて米を作っていました。天候が悪くて米がとれなかったら、家族みんなが、食べるのに困ってしまいます。そこで、一人でも、働きに出れば、それだけ食料が助かるというわけです。

もう一つの問題は女性が教育を受けられないことです。当時の日本は「男女平等」ではなく「男尊女卑」の考え方をする人が多かったのです。ウズベキスタンと日本、私たちはお互いどこか似ていると思います。例えば、嫁と姑との人間関係の悩みや、良妻賢母として家庭を守らなければならないという重圧などがあるところです。

私が日本語を勉強し始めたきっかけは「おしん」をみたことです。私は「おしん」というドラマを通して日本を知りました。自分の国で日本人の先生に『おしん』を見たことがありますか。」と聞きました。すると先生は「実は、見たことがないんです。」と答えま

した。日本へ来た後も 誰に聞いてもそのドラマを知りませんでした。

今の日本の若い世代よりも、ウズベキスタンの若者のほうが「おしん」について詳しいんです。

私は「おしん」に助けられ、勇気をもらいました。

今から、4 年ぐらい前、ウズベキスタンではコロナの感染者が増え、感染対策として外出が制限されていました。私はずっと家で時間を過ごしました。友達にも会えない、大学にも行けない、私は完全にひとりぼっちになってしまいました。私はその時のことを思い出したくないです。なぜなら、私の人生で一番つらくみじめな時だったからです。というのも、付き合い合っていた彼がほかの女性と婚約をし、結婚をしたのです。当時 19 歳だった私にとって、初めての失恋でした。私は女性としての自信を失い、自分の殻に閉じこもってしまいました。

でも、しばらくして、私に転機が訪れました。ある日、テレビをつけたところ、「おしん」が放送されていたのです。子供のころの記憶が蘇りました。両親と一緒に日本のドラマを見て、楽しく会話をしていたこと、そんな記憶です。

そして、「おしん」を見ることによって、私は女性としての強さをもらったのです。それから、私は徐々に元気をを取り戻しました。私が失恋で悩んでいたこと、それは、おしんの境遇に比べたら、「たいしたことじゃないんだ」と思えるようになったんです。「私は女として生まれてきてよかったのか」

私は、女として生まれてきた、教育も受けられる。よその家に売られることもなかった。おしんに比べたら、私はなんて幸せだろう。たぶん、これが私の答えでしょう。

私はこれから強く生きたいと思います。力強く前に。

2

留学生としての一步を踏み出すために

高野山大学— カンボジア

Roeun Veasna (ラウン ビェスナー)

皆さん、こんにちは。留学生としての一步を踏み出すために私はカンボジアのシェムリアップから来ました。シェムリアップは、世界遺産アンコールワットで有名な所です。この歴史ある文化と美しい遺跡を持つ国で育ったことを、私は誇りに思っています。カンボジアでは、日本語を学ぶと同時に、空手道や柔道を通じて礼儀や忍耐を学びました。また、日本語学校では、日本の文化や歴史、さらには歌や行事などに触れる機会もありました。それは私にとってとても新鮮で、刺激的な経験でした。私はこれから日本語や日本文化をもっと深く学び、将来、両国の架け橋になりたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、私は日本に来るとき、大きな期待とともに不安な気持ちも抱えていました。特に日本語でコミュニケーションを取ることに、全然自信がありませんでした。初めて同級生と話そうとしたとき、緊張で胸がドキドキして、言葉がうまく出てきませんでした。「もし私の日本語が伝わらなかったらどうしよう?」「笑われたら恥ずかしいな…」そんなことばかり考えてしまい、なかなか自分から話しかけることができませんでした。

自信のない私に変化が訪れたのは、ある友達の一言がきっかけでした。「ラウン君、どうしてみんなと話さないの?何かあったの?」この問いかけは、私に勇気を与えてくれました。少しずつですが、友達と話す努力を始めました。

友達との会話を増やすために、まずは挨拶を欠かさずするようにしました。例えば、「おはよう」や「こんにちは」と言った簡単な言葉を欠かさず言うようにしました。その次に、少しずつ自分のことを話す練習を始めました。趣味については、「私の趣味は空手道です」と話したり、自分の国の食べ物については、「私の国にはアモックと言う料理があります」と紹介したりしました。アモックはココナッツミルクと香辛料で蒸した魚のカンボジア伝統料理です。

また、ある日、大学で合気道をしている上級生と知り合いになり、一緒に練習することになりました。私は空手道を教え、その代わりに合気道を教えてもらおうという形で、1時間の練習を共有しました。最初は日本語でうまく説明できるか心配でしたが、先輩は優しくサポートしてくれたので、うまく説明できました。例えばこんな風に説明しました。前屈立ちは、まず肩幅に足を開きます。その後、足を前後に広げて立ちます。後ろ足は伸ばして、前足は膝を曲げて親指が隠れる程度にします。

そしてある日、先輩がこう言ってくれました。「ラウン君、日本語が本当に上手くなったね!」

この言葉は、私にとって大きな励みとなり、それ以降、日本語を話すことへの自信がつきました。

みなさんも留学生として日本に来たばかりの頃は、不安や孤独を感じることがあるかもしれません。しかし、私が学んだ一番大切なことは、「挑戦する勇気を持つこと」です。たとえ間違えても、それを気にしすぎないでください。失敗も、学びの一部です。友達や先生、そして先輩たちと積極的に話していくことで、少しずつ自信がついていきます。

私たちはそれぞれ異なる国や文化から来ていますが、同じ夢を持っています。それは、自分の可能性を広げ、より良い未来を築くことです。一緒に努力し、成長していきましょう。最後に、私の好きな日本語の言葉をお伝えします。

「七転び八起き」

どんな困難があっても、必ずまた立ち上がることができる。これからの留学生活も、この言葉を胸に、皆んなで一緒に頑張りましょう。ありがとうございました。

3 私の留学生活

和歌山大学— 中国

呉 凡 (ゴ ボン)

皆さん、こんにちは。今日は私の留学生活についてお話したいと思います。時の流れは早いもので、日本に来てからもう 2 ヶ月が経ちました。振り返ってみると、なぜ留学したいと思ったのか、この決断の背景には私の生まれ育った環境が影響しています。私は中国の安徽省にある小さな村で生まれ育ちました。祖父母や両親の世代の多くは、教育を受ける機会が少なく、収入も多くありません。海外に行くなんて夢のまた夢でした。子供の頃はあまり旅行する機会がなかったので、外の世界に憧れていました。しかし大学進学後、大学を通じて日本に行く機会を得ることができました。

日本で異文化を感じ、体験する中で、印象に残る出来事がたくさんありました。9 月の終わりに日本に到着し、最初に大阪を訪れました。予想通り、高層ビルが立ち並んでいて、にぎやかな街でした。駅で迷ったときには、駅員さんとおばあさんが親切に道を教えてくれました。心が温まりました。その後、和歌山にきました。大阪のような繁華街ではありませんが、施設が充実しており、環境も素晴らしく、静かで穏やかな場所だと思いました。

ここでの生活は、中国とは大きく異なります。食事に関して、中国では熱いお湯をよく飲みますが、こちらでは見かけることがほとんどありません。環境は、予想通り、とても清潔で美しいです。アニメで見たような青空や白い雲を見ることができます。また、道路はきれいで、ゴミ箱はなく、ゴミがほとんどありません。そのほかにも、様々な違いがあり、デザインなどにも工夫が感じられます。日本に来たばかりの頃は心配事もありました。初めて携帯電話の契約や銀行口座の開設などを行ったときコミュニケーションがうまくいかないのではないかと心配しました。事前にインターネットでよく使う言葉を調べて何度も練習したことを思い出します。店員の言うことが理解できないときはとても緊張しました。今では店員の話の一部を理解できるようになり、いろいろな場所に落ち着いて

行けるようになったので、少しずつ自立して生活する力を身につけていていると感じています。また異なる環境にも徐々に慣れてきたように思います。

このような違いや様々な体験をすることが、留学の意義だと感じています。留学は自己探求と成長の旅です。心地よい環境から一歩踏み出し、異国で、一人で生活し、未知の文化や言語に触れることで、自分なりに考え、行動することの大切さを学びました。留学はまた、世界中から来た友達と出会う機会も与えてくれました。留学は単なる履歴ではなく、自分を変えていく、視野を広げ、成長していく過程です。留学は、私に自分の足りない部分を受け入れること、多様性を尊重すること、本当の自分を追求することを教えてくれました。留学生活は決して楽なことばかりではありませんが、後悔していません。なぜなら留学生活は、私を成長させてくれたからです。

ご清聴ありがとうございました。

4 挑戦なくして得るものはない

和歌山工業高等専門学校— マレーシア

Eugene Heng Ting Shen (ユジン ヘン ティン シェン)

皆さん、人類がこれまで進歩することができたのはなぜでしょう。私は、人類がこれまで進歩できたのは、人類が色々なことに挑戦し続けたからだと思っています。「挑戦」は私たちを成長させ、進化させるための糧です。では、どうして「挑戦」ということがそんなに重要なのでしょうか。

まず、「挑戦」は私たちに新しい道を示してくれます。何かに挑戦するとき、もしかしたら私たちに眠っている才能が開花して、新しい可能性が生まれているかもしれません。自分の経験をお話しますと、私はマレーシア政府の奨学金をもらい、日本に留学することができました。その奨学金を得るためには、18才の時に受験する全国統一試験で優れた成績を取る必要があります。数万人の受験生の中で、わずか40人ぐらいしか選ばれません。ごく普通の家庭に生まれ、普通の教育を受けた自分がどうやってあのわずかな希望を勝ち取ることができたのか、それは諦めず挑戦し続ける精神を持っていたからだと思っています。

それ以外に、「挑戦」は人の精神を鍛えることができます。挑戦はいつも失敗と隣り合わせです。失敗は辛いですが、失敗と真正面から向き合うことができる人はさらに強くなり、成功に近づけます。皆さん、和歌山県出身の松下幸之助さんのことを聞いたことがありますか。彼は今のパナソニックホールディングスの創設者であり、「経営の神様」とも呼ばれています。彼は22歳の時、電気会社を辞め、実業家として人生を歩み始めましたが、その時の状態は、財産もない、学歴もない、健康にも恵まれていませんでした。こうした不利な状況から起業した彼は様々な失敗を味わいました。彼の名言の一つ、「失敗したところでやめてしまうから失敗になる。成功するところまで続ければそれは成功になる」は、彼が成功した秘密だと思います。まさにその不屈の精神が彼を成功まで導いてくれました。

最後に、「挑戦」は私たちに学ぶ機会を与えてく

れます。先ほど述べたように、挑戦には失敗がつきものです。成功のときは言うまでもなく、失敗の中にも必ず学べることがあります。私は、昨年、高専ロボットコンテストに出場しました。このような大規模な大会に参加することは初めてですので、正直に言うと、とても不安でした。夏休みもほぼ毎日、大会のために活動しました。その結果、近畿地区大会では見事優勝し、全国大会に出場することができました。全国大会では惜しくも敗れましたが、この敗北の中から色々なことを学ぶことができたとはっきりと言えます。機械を動かすプログラミング能力、チームワーク、難しい課題への対応力、また、日本語での会話能力も向上しました。

皆さん、「挑戦」の重要性はわかっていただいたでしょうか。このように、「挑戦」は私たちに新しい道を示してくれます、「挑戦」は人の精神を鍛えることができます、「挑戦」は私たちに学ぶ機会を与えてくれます。みなさんも、自分の身の回りの新しいことに挑戦してみませんか。些細なことでもいいのです。なぜなら、「挑戦なくして得るものはない」からです。

ご清聴ありがとうございました。

5 私と日本語

和歌山大学— 中国

孫 芸菲 (ソン ゲイヒ)

「日本語の勉強はどうか」「日本人と話すことはできますか」。知り合ったばかりの人や家族からよく聞かれる質問があります。確かに、私が日本語を勉強することに関しては多くの人に聞かれます。多くの学生は日本のアニメが好きだったり、アイドルを応援するために勉強したりしていますが、私は違います。私が日本語の勉強を始めた一番の理由は、ただ入学試験の点数が足りなかったからです。

私は自分が育った北京を愛してやみません。何とか北京に残りたいと思っていましたが、日本語を勉強することは当時の第一選択ではありませんでした。ずっと社会学を勉強したいと思っていた私は、社会学専攻を目指して大学入試を受けました。しかし、実際は思っていたようにはうまくいかず、目指していた成績はとれませんでした。点数を無駄にせず、大学時代も北京にいるためには、日本語を専攻として選ぶしかありませんでした。

日本語を専攻する前は、日本語をあまり聞いたことがなく、日本語がどのようなものなのか全くわかりませんでした。大学に入ってから、周りの多くのクラスメートが簡単な日本語ができるようになったことに気づき、とても不安になりました。また、学習の過程も思ったほど簡単ではなく、文法、単語、聴解が難しかったです。あきらめたくてどうしようもない時もありました。

中国には、日本語に関する試験は JLPT だけではなく、政府が主催する様々な試験があり、一部の中国の大学では、日本語専攻の学生は、JLPT の能力認定書やそれらの試験の合格証書を取得しないと卒業できないという要件があります。ですが、私の通っている大学にはそのような要件はありません。

しかし、私は日本語専攻の学生になった以上、普通の日本語学習者と同じように興味だけで勉強するのではなく、もっと多くの言語知識を身につけることを目標に勉強すべきだと思いました。それで、まだ力不足だと思いながらも挑戦してみようと思って、

JLPT を受けました。日本語専攻の学生として、日本語に関連する試験を受ける際は有利だと思っていましたが、実際にはそうではありませんでした。N2 試験の準備をしていた時、試験の問題が学校で教えているものとは全く違うことに気づきましたが、この時は試験まで 3 ヶ月しかありませんでした。軽く考えていたために、N2 試験に合格しませんでした。諦めずに、半年後に N1 試験を受けました。多くのことを学んだと思っていたのに、また不合格でした。

一回目の失敗は軽率だったと言えますが、二回目は準備が十分な状況でパスできず、自分にとてもガッカリしました。どうして他人は合格できて、私は合格できないのか、とよく自分を責めました。ずっと失敗の感情にとらわれていて、まるで目の前に黒い布をかけられているようで、前進する方法が見つからないと感じていました。そこで私は解いた問題から自分の弱点を探し、単語と文法だと気づいた後、この二つの部分に力を入れ始めました。このような目標設定の下で、スランプの段階を経たあと、気持ちをリセットして、今、元気に日本語を勉強しています。

将来は日本の大学院に進学し、社会学の修士をとりたいと思っています。日本の社会学は世界的に知られていますし、何より、日本社会を実際に体験し、深く知りたいと思っているからです。努力によって目標を実現したいと考えています。学びの過程は順風満帆ではなく、人生も同じです。まだまだ足りないことはたくさんありますが、今は前向きな気持ちで日本語の学習に取り組んでいます。

以上です。ご清聴ありがとうございました。

6

「日本留学が教えてくれた夢の形」

高野山大学— 中国

寇景祺 (コウ ケイキ)

皆さん、こんにちは。

高野山大学密教学科2年生の寇景祺(こうけいき)と申します。本日は、日本留学を通して見つけた「夢の形」についてお話しさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

ところで、皆さんにとって「夢」とはどのようなものでしょうか？

私にとって、夢とは最初から明確なものではありませんでした。実際に、大学の入学面接の際に、学長先生から「あなたの夢は何ですか？」と問われたことがあります。その時、私は答えに詰まってしまい、それ以降、この質問は私の心の中にずっと残り続けています。

日本に来たばかりの頃、私は日本語がほとんど分からず、留学生活は不安の連続でした。相手が何を言っているのか全く理解できず、「分かりません」と答えるしか出来ない自分に負い目を感じる日々でした。

しかし、日々真剣に日本語学習と向き合うことで、状況は少しずつ変わり始めました。最初は「おはようございます」や「ありがとう」といった簡単な挨拶から練習を始めました。

ある日、高野山の大門で、観光客の方から「おはようございます、高野山は寒いですね」と声をかけていただいたとき、私も勇気を出し「おはようございます」と返した瞬間、言葉の壁を少し越えられたような気がしました。

皆さんもこんな経験をされたことはありませんか？

ほんの一言でも、勇気を出して踏み出した瞬間に、自分の中で何かが変わったと感じたことです。

私にとって、その時の朝日や淡路島の光景とともに、小さな自信の種が心の中に芽生えたのを今でも覚えています。

その日以来、私は挨拶を積極的にするようになりました。「今日も頑張ってるね」や「風邪をひかないでね」と優しい言葉をかけてくださる近所の方々との交流

が、私の留学生生活を豊かにし、大学では、日本人の友人とたくさんの時間を一緒に過ごし、心から語り合える友人も見つけ、「言葉」や「文化の違い」を超えた深いつながりを築くことができました。

振り返ると、一年前に始めたカフェでのアルバイトも、私の成長に大きな影響を与えてくれました。最初は、レジでお客様に何を言えばいいのか分からず戸惑いでしたが、上司に教わった「お預かりします」という言葉を家で何度も練習しました。繰り返しの練習と実践を通じて、自信を身につける事ができました。特に印象的だったのは、外国人のお客様を接客したときのことです。英語が得意ではない私ですが、できる限り簡単な英語を使い、精一杯お手伝いをしました。たとえば、メニューの内容を説明したり、近くの観光地を教えたりと、自分なりに考えながら対応しました。お客様が笑顔で「Thank you」と言ってくださった瞬間、国や文化が違っても、心を込めたコミュニケーションは必ず伝わると実感しました。この経験は私にとって大きな自信となり、接客へのやりがいや喜びを感じるきっかけとなりました。

こうした経験を積み重ねる中で、私は「言語や文化の壁を越え、人と人を繋げられる存在になりたい」という夢を見つけました。言葉が通じたときの喜び、人の心がつながる瞬間の温かさ。その感覚こそが、今の私の原動力になっています。

今なら、あのときの学長先生にこう答えられます。

「私の夢は、言語や文化の壁を越え、人と人をつなぐ架け橋となることです。」

夢は最初から明確な形を持っているわけではありません。様々な経験を積み重ねることで、徐々に形作られていくものだと思います。私にとって、その形を見つけるきっかけが日本での留学生活でした。

これが私が見つけた「夢の形」です。

本日はご清聴いただき、ありがとうございました。

私の人生で大切なこと

和歌山工業高等専門学校— カンボジア

Yinh Minar (イン ミニア)

人生は無数の経験、機会、そして挑戦に満ちた旅です。私たちはそれぞれ、自分の価値観、信念、そして個人的な目標に基づいて、人生というさまざまな旅の途中で優先順位をつけて生きています。私にとって、人生で最も大切だと優先しているものは、家族、自己成長、そして時間です。

私の人生で第一の優先事項は家族です。家族は私の人生の土台となるものです。そこには愛、支え、そして帰属意識があり、私の人生に欠かせません。両親、兄弟、親戚など、私の家族は、人生の浮き沈みの中で私をいつも支えてくれる存在です。彼らからの揺るぎない愛と励ましは、私に挑戦に立ち向かう力や、夢を追い求める自信を与えてくれます。家族と過ごす充実した時間は、私にとって非常に大切なものです。こうした彼らとのつながりの時間は、人間関係の価値や、かけがえのない絆を思い出させてくれます。個人の成功ばかりが重視される現代社会において、家族は団結と無条件の愛の重要性を教えてくれていると考えます。

私の人生で第二の優先事項は自己成長です。人生は絶えず学び続ける旅であり、私は毎日少しでもいいので成長し、昨日よりもより良い自分になることを目指しています。新しいスキルを身につけたり、何か恐怖心を克服したり、経験から知恵を得たりすることを大切にしています。しかし、時には自分の能力を疑ったり、失敗を恐れてリスクを取ることをためらったりすることもあります。このような自己不信は、チャンスを生かすことや、自分の考えを十分に表現することを妨げることになります。そのため、私は、自分をもっと信じ、チャンスを掴む勇気を育てていきたいと思っています。さらに、自分の目標を達成できると自分で信じるのが大切だと考えています。私の成長は私自身のためだけでなく、周りの人々にも影響を与え、人々が自分を信じるきっかけになることを願っています。

私の人生で第三の優先事項は時間です。時間は、

この地球上で最も価値があるものだと思います。それはお金と比べられるものではありません。なぜなら、使ったお金は稼ぎ直すことができますが、失った時間を取り戻すことは決してできないからです。人生は短く、私たちには人生の中でやるべきことが数多くあります。ですから、時間を無駄にせず、人生のすべての瞬間を適切かつ有意義に使うべきだと考えるのです。

私にとって人生で最も大切なもの、家族とのつながり、追求すべき自己成長、お金で買うことのできない貴重な時間についてお話ししました。私が人生において重視しているこれらの優先事項は、私の人生に方向性と目的を与え、私が何者であるか、そして何者になりたいかを指し示してくれます。私は、誰もが本当に大切なことに焦点を当てて生きること、意味があり充実した人生を送ることができると信じています。みなさんの人生が充実したものになりますように。

実践と理論の対立：中日教育の相違

和歌山大学— 中国

黄 金武 (コウ キンブ)

みなさんの中学時代の生活はどのようなものでしたか。中国は日本と比べて何が違うのでしょうか。今日は日本に来て、しみじみ感じた中国と日本の教育の違いについて話したいと思います。

先月、西脇中学校との交流授業に参加しました。この活動を通して、両国の教育の違いを肌で感じました。日本の教育は実践的で、中国のほうはより理論的です。西脇中学校の例では、生徒たちは1日6時間しか授業がなく、午後3時半には下校するのが普通です。しかし、中国の中学生は1日8時間の授業があり、夜10時までの自習を終えてから寮に帰ることができます。

また、授業科目も中国と日本は大きく異なります。西脇中学校では、基本的な科目以外に、技術・家庭という生活に必要な基礎的な技術の習得などを目的とする科目があります。中国では一般に国語、数学、英語、政治、歴史、地理学、物理学、化学、生物学の9つの科目のみであり、技術・家庭のような科目は、昔、ありませんでした。2022年に日本の技術・家庭に対応する「労働」という科目が設置されたばかりです。

さらに、日本の授業では生徒が中心となっています。授業では生徒たちが議論に参加したり、自分の意見を発表したりする機会が多く、知識の習得にとどまらず、先生も生徒と一緒にゲームをするなど、師弟関係というより、友人関係に近いものがあると思います。中国では、理論的知識の教え込みが非常に重視されているので、教師が中心となっています。授業では教師が知識を教え、生徒たちは講義を聞いたり、ノートを取ったりするのが主です。なぜなら、教育上の競争が激しいからです。

近年、中国では教科書が改訂され、内容がわかりにくくなったと言われています。ネット上では、こういう冗談があります。ネットゲームでは、普通、ゲームコントローラーで操作します。スティックが方向、アクションボタンが行動を制御します。しかし、この

操作方法を教科書に書くと、ゲームコントローラーの歴史、なぜゲームコントローラーを選んで操作するのかなど、簡単な知識を複雑にしていると言われていきます。日本の教科書は単なる知識の教えではなく、他人とディスカッションさせることで、内容への理解を深めます。こうしたことから、中国はより理論的な教育を重視し、日本は実践的な教育に力を入れていると考えられます。

私は日本語学習者として両国の教育システムをもっと学ぶために、この先頑張りたいと思います。そして、中国のほうは実践的能力を培い、日本のほうは理論的知識の会得にも力を入れ、実践と理論のバランスをとっていくことが大切なのではないかと思っています。このように、中国も日本も、これからの教育は新たなステップに進んでいくと信じています。

9 日本でランニングしよう！

和歌山大学ー ベトナム

Dang Thanh Long (ダン タイン ロン)

皆さんは走るのが好きですか。日本に来て留学している私たちは、母国より歩く頻度が増えたのではないかと思います。なぜなら、日本では交通機関が発達しており、駅やバス停まで歩いて行けるからです。また、都市部では歩道が整備されており、歩きやすい環境が整っています。母国ベトナムでは、歩きやすい環境は、日本に比べて整っていません。そのような環境に育ち、歩くことも走ることも苦手になっていた私にとって、マラソン大会に出場することは一度も考えたこともありませんでした。でも、それが現実になったのです。そして、それは私が日本に留学しているときの忘れられない思い出の一つになりました。

私は今年の 11 月、ゼミクラスの日本人学生と一緒にマラソン大会に参加しました。マラソン大会に参加したことがありませんから、最初、参加するかどうか迷いましたが、考えた結果、マラソン大会に参加することにしました。

マラソン大会は 11 月 10 日に和歌山マリーナシティで開催されました。大会の前、ゼミクラスの日本人学生と一緒に厳しい寒さの中、大学の坂の下にある陸上競技場でランニングの練習をしました。強い風で寒かったですが、本番に向けて精一杯練習しました。そして、ついにマラソン大会の日が来ました。スタート地点に立ったとき、私は日本人に囲まれていましたので、どうもここは私には場違いのような気がしました。でも、先生と皆さんの励ましのおかげで、自信を持ってスタートできました。ランニングコースでは、青い海や山、道沿いの森林など、和歌山の美しい自然の景色をたくさん見ることができました。走っているとき、ボランティアの皆さんから「ガンバレ！」の声援が途切れることなく聞こえてきました。それが前に進む気力を与えてくれました。ゴールした瞬間は、自分でも信じられないほどの達成感があり、とても嬉しかったです。

このマラソン大会の経験を通して、たくさんの方に気づきました。一つは何かを行動する前には、しっ

かりと考え、準備し、練習することの大切さです。また、日本人のスポーツに対する情熱や、健康を大切にする姿勢にも気づかされ、感銘を受けました。今言えることは、何か物事をするかしないか迷ったときは、失敗を恐れずに挑戦してみようということです。留学生活は、日本語や日本文化の向上を目的とするだけでなく、様々な挑戦によって、精神的にも成長できる機会でもあります。この留学経験は、人生を歩んでいく上で、人として成長していく上で、大切な価値観を与えてくれました。

実は、今回のスピーチコンテストも、マラソンと同じく、私にとって初めての経験であり、挑戦です。ベトナムに戻った後、もし日本での留学生活をテーマにしたスピーチコンテストに参加する機会があれば、このマラソン体験について話したいと思います。また、初めてスピーチコンテストに出場して、どのように自信を持って果敢に挑戦したのかも、ぜひベトナムの皆さんにお伝えしたいです。

これで私のスピーチを終えたいと思います。ご清聴いただきありがとうございます。

10 「高野山での2年間」

高野山大学— 中国

李 明翰 (リー ミンハン)

今日は、高野山での二年間についてお話しします。

私が高野山に来たのはちょうど2年前のことです。初めて来たとき、高野山のお寺の壮大さに圧倒されました。後で名前が分かりましたが、金剛峯寺や壇上伽藍、中門などでした。

そして、高野山高校に入学しました。入学したばかりの頃は新しい環境に慣れず、戸惑うことも多かったですが、でも、先生やクラスメートはとても優しく、困ったときにはすぐに助けてくれました。そのとき、私は「日本人って本当に優しいな」と思いました。

高校時代にはいろいろな活動がありました。修学旅行や文化祭、体育祭など、一般的な学校行事もあり、修学旅行では沖縄に行きました。沖縄に行くのは初めてで、飛行機から見た青く澄んだ海に感動しました。「なんてきれいな海なんだ!」と思わず口にしてしまいました。沖縄で過ごした数日間は、期待以上に楽しかったです。海洋館に行ったり、ビーチを見たり、クラスメートと一緒に沖縄の文化を体験しました。次の機会があれば、ぜひまた行きたいと思っています。

高野山高校には他校にはない特別な行事もありました。例えば、参拝や般若心経を唱えることです。

参拝とは、弘法大師が眠る奥の院をお参りすることです。毎月21日は弘法大師の入定日で、高野山では多くの人が奥之院を参拝します。私たち高校生も例外ではなく、全員で高校から奥之院まで歩いて行きます。1時間かかります。道中は疲れますが、奥之院に着くころにはその疲れが不思議と消えてしまいます。「これが弘法大師の力なのかな」と感じました。奥之院は弘法大師が眠っている場所で、高野山の人々はその存在を深く敬っています。弘法大師を慕う人々のお墓も奥之院には沢山あります。戦国大名の豊臣秀吉や織田信長、石田三成などのお墓もあります。

初めて中門を見たとき、「この美しい門は本当に人間が作ったのか?まるで宇宙技術のようだ!」と驚きま

した。ドキュメンタリーを見ることで、木の柱や石の柱が職人の手で一つ一つ丁寧に作られていることを知りました。本当に素晴らしい技術です。「高野山の皆さんって本当にすごいな」と心から思いました。ここでの暮らしは幸せです。

私が最も影響を受けた出来事は、高校時代にルール違反をしてしまったことです。日曜日、コンビニの隣の喫煙場所でタバコを吸っているところを、塩崎先生に見つかってしまったのです。中国では18歳からタバコを吸っても良いので、19歳の私は問題無いと思っていました。しかし、日本では高校生はタバコを吸ってはいけなかったので、担任の林先生から「馬鹿野郎!」と、怒られました。

日本での留学生活は終わった、と思いました。

そのとき、校長先生が

「心に思いやりの優しさあり、身のこなし美しく、口にいつもありがとう」

という高野山高校の校訓を教えてくださいました。

その言葉を聞いたとき、思わず涙が出ました。チャンスを与えてくださった校長先生には心から感謝しています。私は一生この言葉を忘れません。

こうして波瀾万丈の私の高校生活も、最後の文化祭を終えて幕を閉じました。そして同時に、高野山大学への合格が決まりました。高校卒業後、数か月ぶりに高校時代に訪れた場所を一人で再訪しましたが、「やっぱりクラスメートと一緒にのほうが楽しいな」と感じました。振り返れば、嫌なこともありましたが、高校生活は本当に楽しかったです。

春休みを経て、高野山大学に入学しました。大学では新しい友達もでき、高校時代からの友人もたくさんいます。大学1年生の終わりが近づく中で、弘法大師が高野山に入った経緯や高野山の成り立ちについて学びました。これは高校時代には知らなかったことです。

以上です。ありがとうございました。

1 「ベトナム人に対する印象を変えたい」

和歌山大学— ベトナム

Nguyen Thi Hai Ha (グエン ティ ハイ ハー)

私は日本語を勉強してから、3年近くになりますが、最初のころは、自分にとって日本語学習の目標は何か、一度も考えたことがありませんでした。友達に聞いてみると、人によって目標は違うそうです。でも、日本語を勉強する目標は何か、で、私は悩んでいました。

日本語の勉強を続けるうちに、ネット上でベトナムと日本に関する情報に触れる機会が増えました。次第に気づいたことは、ニュースやビデオの多くが、在日ベトナム人による犯罪、特に窃盗や万引きに関するものでした。日本において、この問題がこれほど話題になっていたのを知り、私はびっくりしました。

ニュースを読み続けていると、埼玉県にあるお店で撮影された「万引きは犯罪です!」のベトナム語の警告文が目に入ってきました。英語でなくベトナム語でわざわざ表記する警告からみて、日本に住んでいるベトナム人の犯罪が多くなっているようです。

それらのニュースやビデオの下には、「彼らこそは国の恥さらしだ」、「日本人にとってはベトナムに対する印象と言えば「万引き」が頭に浮かんでくるでしょう。」など、多くのコメントが寄せられていました。

日本に住んでいるベトナム人の生活はとても大変であることは分かります。けれどもそんなに法を犯して、母国（ぼこく）のイメージを悪くすることは許されないことでしょう。このことについて、日本人の先生に話しました。

先生は「日本にしか住んだことがない日本人はベトナム人のことをあまり知らないので、悪いニュースを聞いたら、ベトナム人はみんな悪い人だと決めつけてしまいます。ベトナムへ行ったことがある人やベトナム人の友達がいる人は、ベトナム人がそんな人ばかりじゃないことを知っていますよ。ハーさんが日本語を勉強して、日本人にベトナム人のいいところをたくさん教えてあげてほしいです」とおっしゃいました。

先生のおかげで、自分の日本語を勉強する目標を

見つけました。それは日本語を勉強して、日本人のベトナム人に対する印象を変えるということです。私はこれから日本の皆さんにベトナム人のいいところやいい話題を広めていきます。

たとえば、今年ベトナムで「Yagi」という大きな台風による深刻な被害を受けた地域で、どれほど危ない状況でもベトナム人は被災者を支援するために多くのボランティア活動をしたという話です。さらに被災者のために全国のベトナム人のみならず世界中に住んでいるベトナム人のコミュニティも協力して寄付金を提供したという話もあります。

毎日の生活にもそのようないい話題がいっぱいあります。もし日本人がその話を知るようになったら、ベトナム人に対する考え方も変わってくるでしょう。そのことを現実にするために、私はこれから精一杯日本語を勉強して、日本人にベトナム人のいいところを見せたり、ベトナム人に対する印象を変えたりするようにしていきます。

12 「謙譲語と接客：私が日本で出会った文化」

近畿大学— 中国

Gan Yunuo (カン ウーノ)

皆さん、こんにちは。中国から来た干雨諾です。今、近畿大学生物理工学部の2年生です。

留学生のみなさん、みなさんは、日本に来る前に日本語をどれくらい勉強してきましたか。私は「あいいうえお」の50音から始めて、簡単な挨拶はもちろん、敬語も勉強してきました。私にとって、特に謙譲語は難しく、テキストを使って、繰り返し、繰り返し勉強してきました。謙譲語は、絶対に身に着けなくては……と思いながら。ところが、実際に日本に来て生活を始めると、謙譲語は単なる言葉遣いにとどまらず、毎日の生活の中にも、たくさんあることがわかりました。それを最初に実感したのは、日本に来て間もない頃、携帯電話のSIMカードを購入するために、携帯ショップに行った時です。お店に入ると、一人の店員さんがすぐ近づいてきて、予約の有無を尋ねられました。予約はしていなかったので、不安に感じていたところ、別の店員さんがやってきました。そして、当たり前のように隣に膝をついて、料金プランを説明してくれました。私は驚きました!「え? どうして?!」なんで初対面の私にひざまずいて、料金プランを説明してくれるの?」日本での最初のカルチャーショックでした。中国では、「ひざまずく」という行為は特別な意味を持っていて、普通は親や尊敬する人に対して行う動作です。初対面の人にひざまずくことは、ありません。店員さんにひざまずかれた私は、なんだかとても敬われている気分になって、自然と湧き上がってくるこそばゆさに、戸惑いを隠せませんでした。

この出来事をきっかけに、私は日本での日常生活における「ひざまずくサービス」に注目するようになりました。そして、ひざまずいて相手に対応する行為は、日本では、案外よくあることだと気づきました。例えば、空港でスタッフが利用者の質問に答えるとき、レストランで店員さんが注文を受けるとき、しゃがんだり、膝をついたりしている姿を見ることは珍しくありません。病院やショッピングモール、さらにはテ-

マパークでも、ひざまずく光景を目にしました。私は、ますますその背景にある文化に興味を持ちました。調べた結果、中国と同様に、日本でも、ひざまずく行動は古代の礼儀文化に由来していることがわかりました。しかし、中国と日本では異なる点があります。例えば、中国では膝をつく行為は、親への感謝を表すときなど、特別な儀式でよく使われます。一方、日本では、これがサービス業などの日常として受け入れられています。特に、顧客の視線よりも自分の視線を下げることで、顧客への敬意や配慮を表しています。「これって、日本語の授業で学んだ謙譲語だ!」私の頭の中で、何かがピピッとつながりました。この体験を通じて、日本の敬語が、単なる言葉だけではなく、相手を尊重し思いやる姿勢そのものであることを知りました。言葉を覚えて勉強するだけではなく、その国の価値観や文化を理解することが重要だと気づきました。このような新たな気づきを得ることで、私の留学生活が、さらに豊かになっていくのだと思います。この学びを胸に、私は、これからも日本の文化を学びながら、自分自身を成長させていきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

13 「気づかない生活」

和歌山大学— インドネシア

Carlene Felicia (カルレン フェリシア)

私は留学してから、今まで気が付かなかったことに気が付いたことがいくつかあります。その中でも特に驚き感動したことをお話したいと思います。この前、私は初めて日本でヨーグルトとアオハタというブランドのジャムを買いました。甘党ではありませんが、たまには甘いヨーグルトとジャムを食べたくなります。日本のヨーグルトを初めて食べた時に、ちょっと面白いことに気づきました。それは、ヨーグルトのシールです。シールをはがした瞬間、「あれ?」と思いました。なぜだと思いますか?ヨーグルトのシールにヨーグルトが付いてないからです。インドネシアでは、ヨーグルトのシールには、ヨーグルトは絶対に付いているので、日本のヨーグルトのシールにヨーグルトがついていないのは、私には大きな発見と驚きでした。

また、アヲハタジャムについてもあることに気づきました。それはジャムの蓋です。アヲハタジャムを買ったことがある方は、他のジャムと違いがあることに気が付いているのではないのでしょうか。それは、ジャムの蓋です。アヲハタジャムの蓋は、勝手に閉まります。魔法みたいで本当にびっくりしました。インドネシアでは、絶対ないことです。日本とインドネシアは多くの点で異なりますが、実際に日本で生活をして知った小さなことですが、私には大きな驚きと発見でした。日本人の友達とこのことについて話したら、日本人の友達は、「確かにね!」というリアクションをしました。このことから、私は日々の小さなことに気が付いているのだろうかという疑問がおこりました。

私は、インドネシアに親友がいます。和歌山に来てから、ほぼ毎日連絡を取っています。私と親友は、デコレーションフィギュアが結構好きです。私は特に、スミスキーという緑色のデコレーションフィギュアが好きです。ある日、その友達のメッセージに、「レレンが和歌山に行ってから、寂しくなったけど、スミスキーを見るといつもレレンのことを思い出すよ」と書かれていました。この親友のメッセージを見て、私は親友の温かく思いやりのある気持ちを嬉しく思いました。

そして、その言葉に私は幸せを感じました。「私のことを思ってくれてありがとう」と感動の気持ちでいっぱいになりました。

ヨーグルトのシールの発見やジャムの蓋に驚いたこと、そして友達のことばに感動したこと、こういった日常の小さなことに幸せを感じました。大きな目標を達成することの喜びももちろん大切です。私も将来の大きな夢を叶えるために留学しました。でも、人間は日々の生活を過ごしていると、日常の当たり前のことに感動することを忘れがちだということに気が付きました。この小さな感動や喜びは、外国で暮らす私にとっては日々の励みになっています。この小さな幸せを感じられるから、将来の大きな夢に向かっていけるのだと思っています。

皆さまも、ぜひ小さなことに幸せをみつけてください。

以上です。ご清聴ありがとうございます。

14

「なぜ日本人は『国産』が大好きですか？」

和歌山大学— 中国

張悦妍 (チョウ エツケン)

皆さん、こんにちは。私は中国から来た交換留学生の張悦妍です。よろしくお願いいたします。

今日のテーマは「何で日本人は国産品が大好きですか」です。でも、テーマに入る前に、まず皆さんに一つ質問したいと思います。皆さんは、自分の国で買い物をする時に、「国産」という表示を気にしたことがありますか？例えば、ある商品に国産品と輸入品の選択肢があった場合、どちらを選びたいと思いますか？

私の国では、買い物をする時に商品に「国産」という文字があるかどうかをあまり気にしません。でも、日本に来てから気づいたのは、日本人が「日本製」の商品を好んでいるということです。値段が少し高くても、日本製を選ぶ人が多いのです。

このように、「国産」が大好きなのは、日本の特徴の一つだと思います。でも、なぜ日本人は日本製をこんなに好むのでしょうか？もし、私と同じようにこの疑問を持っているなら、ぜひこのスピーチを最後まで聞いてくださいね！

まず、安全のためです。日本の食品安全基準と法律はとても厳しいので、日本人は日本製がより信頼できると思っています。特に、食品、化粧品を買うとき、日本人は自分が信頼できる日本製を選びます。次に、日本人の「民族意識」と「団結意識」があるからです。日本人は地元の商品に強い愛着を感じています。日本製を買うことは、自分の国を応援する「愛国心」の表れだと考えられています。そして、国産品を選ぶことで地元の経済を助けることができるという意識も、日本人が国産品を選ぶ理由の一つです。

また、日本人の価値観も関わっています。日本社会では「和」という大切な価値観があります。「和」は、個人と集団の調和を重んじる考え方です。日本人は国産品を買うことを自分の責任だと思っていて、これが国内経済を助けると考えています。そのため、国

産品を選ぶことは集団を大切にする姿勢の表れとも言えます。

最後に、多くの人が知っている「職人の精神」です。日本人は職人と技術を大切にしている、日本のものがより優れていると考えています。さらに、日本の職人精神は世界でも知られていて、多くの人が日本の商品を買いたがります。今、日本製は日本国内だけでなく、世界中でも人気があります。例えば、中国では日本の車だけでなく、ボールペンもとても人気です。少し前には、日本製の炊飯器が話題になって、多くの人が欲しがっていました。留学生のみなさんの中には留学前に家族から「化粧品を買ってきて」とか、「服を買って送ってほしい」と頼まれたことがある人も多いのではないのでしょうか？これは日本製の魅力の表れですね。

この面白い現象は、日本人のものづくりへの自信と高い民族意識を反映しています。今では「日本産」は高級品の代名詞となっています。私のスピーチを聞いた後、皆さんは買い物をする時、日本製のものを選びたくなったでしょうか？

私のスピーチはこれで終わりです。ご清聴ありがとうございました。



本コンテストの開催にあたりましては、ご後援いただきました機関の方々、地域の方々からご協力、ご支援をいただきましたことに厚く御礼を申し上げます。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

第22回 学長杯留学生による

日本語 スピーチコンテスト

JAPANESE SPEECH CONTEST



出場者募集!

2025年 **1月11日(土)**
13:00~15:30 (受付開始12:30)

● エントリー締切 / 11月22日(金) 17:00

参加希望者はエントリーフォームから、
申し込みをしてください ▶▶▶



● 原稿提出締切 / 12月16日(月) 17:00

開催場所 和歌山大学 東1号館 E1-102教室 (和歌山市栄谷930番地)

[主催・お問い合わせ] 国立大学法人和歌山大学
国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センター

<https://www.wakayama-u.ac.jp/cjs/>
TEL.073-457-7524 / Mail cjs@ml.wakayama-u.ac.jp

[後援] 和歌山県 / 和歌山市 / (公財) 和歌山県国際交流協会 / NPO法人WINコンコード / 国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川 / 高野山大学 / 和歌山工業高等専門学校 / 和歌山YMCA国際福祉専門学校

WAKAYAMA UNIVERSITY CAMPUS MAP

開催場所 和歌山大学 東1号館 E1-102教室

第22回 学長杯留学生による

日本語スピーチコンテスト JAPANESE SPEECH CONTEST

●出場資格

和歌山県内の高等教育機関、専門学校または日本語学校に在籍する、日本語を母語としない18歳以上の留学生。

●募集人数

12名 ※応募者多数の場合は、各校に選出していただくことがあります。

●演 題

内容は自由。制限時間5分以内(1,200~1,500字程度)
但し、応募できるのは他の大会等に提出していない未発表の作品に限ります。

●エントリー締切

11月22日(金) 17:00

参加希望者はエントリーフォームから、申し込みをしてください▶▶▶



●原稿提出締切

12月16日(月) 17:00

原稿はword形式で作成し、メール添付で下記アドレスにお送りください。

cjs@ml.wakayama-u.ac.jp 和歌山大学国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センター

※提出後の原稿修正、差し替えはできませんので、ご了承ください。

●審査基準

審査員による採点 (1) 内容…印象に残ったもの、興味深い内容、など【5点】
合計20点 (2) 構成力…一貫性があるかなど【5点】
(3) 日本語…語彙、文法、発音、イントネーションなど【5点】
(4) 表現力…アイコンタクト、身ぶり、声の調子など【5点】

※制限時間(4分45秒~5分15秒) に対する過不足は、以下の点数を審査合計点から減点する。
⇒過不足10秒ごとに【-1点】

●入 賞

優勝/2位/3位/特別賞/WIXAS賞…各1名

入賞者には図書カードが贈呈されます。

優勝 10,000円分/第2位 5,000円分/第3位 3,000円分/特別賞 2,000円分/WIXAS賞 5,000円分
NPO法人WINコンコード様より、出場者全員に奨励賞(QUOカード2,000円分)が贈呈されます。

[主催・お問い合わせ]

国立大学法人和歌山大学

国際イニシアティブ基幹日本学教育研究センター

<https://www.wakayama-u.ac.jp/cjs/>

TEL.073-457-7524 / Mail cjs@ml.wakayama-u.ac.jp

[後援] 和歌山県/和歌山市/(公財)和歌山県国際交流協会/NPO法人WINコンコード/国際ソロプチミスト和歌山紀ノ川/高野山大学/和歌山工業高等専門学校/和歌山YMCA国際福祉専門学校



国立大学法人
和歌山大学



Wakayama University
Center for Japanology Studies



Wakayama University
Center for
Japanology Studies